

2014年のシラヒゲウニ種苗生産

松尾和彦*¹

1. 目的

県内漁業者、市町村からの種苗要望数135,000個体を配付するためシラヒゲウニの種苗生産を行う。

2. 材料と方法

シラヒゲウニの種苗生産方法は、玉城ほか(2015)に従った。

3. 結果と考察

種苗生産状況を平成26年度西日本種苗生産機関連絡協議会介類分科会会議資料より抜粋し、表1に示す。

種苗配付状況を資料9 2014年の養殖及び放流種苗受け取り来訪者団体名より抜粋し、表2に示す。

表1 平成26年度(2014年)のシラヒゲウニ種苗生産状況

生産(採卵)開始年月日		2014/4/16	
項 目		概 要	問 題 点 及 び 対 策
親	履歴	天然採取	自然の産卵期ではない親ウニを使用するため、熟卵が得難い場合がある。
	飼育水槽 種類	FRP製直方形水槽	
	サイズ・水量・面数	10kL、1面	
	殻長(mm)	66~90	
	個体数(雌雄別も)	30×2回(不明)	
	餌の種類	海藻・陸上植物	
飼育年数	当日採取~1年		
採卵	方 法	KCl注射	2回採卵
	採卵数(×10 ⁴ 個)	783	
	孵化数(×10 ⁴ 個)	566	
	孵化率(%)	72.3	
浮遊期の飼育	飼育水槽 種類	アジテーター付1kL/パンライト	幼生の発育差の大きい事例が多い。
	サイズ・水量・面数	1kL 8面	
	収容密度(個体/mL)	0.4~0.8	
	餌 料	<i>Chaetoceros gracilis</i>	
	水温範囲(°C)	23.0~30.0	
	換水率(回転/日)	50%換水(0.5μ 精密ろ過海水)	
	通気方法	水槽底面塩ビ管 弱通気	
	生残率(%)	69.6	
採苗率(%)	50		
着定期の飼育	飼育水槽 種類	屋内FRP製	現在実施中。
	サイズ・水量・面数	15kL 14面	
	収容密度(個体/L)	20	
	餌 料	付着珪藻	
	水温範囲(°C)	23~30	
	換水率(回転/日)	1~3回転/日 精密濾過海水の換水	
	通気方法	水槽底面の塩ビ配管による通気	
コレクター	ポリカーボネイト製波板		
剥離後の飼育	飼育水槽 種類	トリカルネット製カゴ	現在実施中。アナアオサ給餌期に1~2割の斃死。
	サイズ(m)	1.5×1.0×0.7及び1.5×0.7×0.7	
	収容方法(直播は空欄)		
	収容密度(個体/カゴ)	2,000~3,000	
	餌 料	クワ、アナアオサ	
	水温範囲(°C)	28~30	
	換水率(回転/日)	10	
通気方法	水槽底面の塩ビ配管による強通気		

2014年9月11日開催平成26年度西日本種苗生産機関連絡協議会介類分科会資料より抜粋

*¹現在の所属：水産海洋技術センター

表2 2014年のシラヒゲウニ配付状況

配付年月日	配付先漁協・団体名	配付数 (個体)	殻長 (mm)
2014/8/28	佐敷中城漁業協同組合	2,000	34
2014/9/5	糸満・西崎・喜屋武漁業集落	5,000	31
2014/10/1	金武町	10,000	33
2014/11/19	今帰仁漁業協同組合	2,500	28
2014/12/11	宮古島市海業センター	20,000	14
2015/1/19	宜野座漁業協同組合	10,000	32
2015/2/10	伊江漁業集落	5,000	31
2015/3/9	今帰仁漁業協同組合	7,500	29
2015/3/12	渡名喜村漁協	3,000	34
2015/3/26	国頭漁協	4,200	30
	合計	69,200	29.6

4. 文献

玉城英信・中村勇次, 2015: 2013年のシラヒゲウニ種苗生産. 平成25年度沖縄県栽培漁業センター事業報告書 24, 32-35.